

老年看護学実習 I

1. 目的

地域や施設における高齢者との関わりから、老年期の特徴を理解し高齢者の持てる力に着眼して自立や安全性を考えた看護を実践する能力を養う。

2. 目標

- 1) 対象の生活史や価値観の理解を深め身体的・精神的・社会的側面から対象を捉えることができる。
- 2) 高齢者に関心を寄せ尊重した態度がとれる。
- 3) 対象の加齢や疾患、障害による日常の生活機能への影響を包括的にアセスメントし、看護展開できる
- 4) 対象の意思・意欲を尊重し、自立度を維持しながら安全な援助ができる。
- 5) 高齢者の生活を支える職種の役割と重要性を理解すると共に、チームにおける看護師の役割が理解できる。
- 6) 高齢者との関わりから老年観を養い、自己の老年観を深めることができる。

3. 実習構成

老年看護学実習 I 2 単位 (90 時間)	・時間数 (単位)	実習施設
	2 時間	学内 (学内オリエンテーション)
	29 時間	老人福祉センター 大規模複合型介護施設
	59 時間	介護老人保健施設

4. 患者選定条件

- 1) 意思疎通が図れる人
- 2) 日常生活援助を要する人

5. 実習目標に関する学習内容

目標 1 対象の生活史や価値観の理解を深め身体的・精神的・社会的側面から対象を捉えることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 高齢者の特徴 (加齢変化および認知症や健康障害) を踏まえたコミュニケーションをはかることができる。	1. 対象の個人史、生活背景の理解・発達段階 (エリクソン・ハヴィグースト) 2. 高齢者を尊重した態度 3. 高齢者とのコミュニケーション方法 ① 加齢変化の影響 ② 疾患・障害の影響 ③ 老人性難聴 ④ 失語症 ⑤ 構音障害	・事前学習、追記学習の活用 ・高齢者の特徴を踏まえて対象とコミュニケーションをとる。また、コミュニケーションを通し対象の生活史や価値観を知り、ライフヒストリーを作成していく。 ・コミュニケーションを通し、対象の方の思いを傾聴する。
2. ライフヒストリーの聴取を行い、対象の生活史や価値観を理解することができる。	4. 認知症について ① 認知症の症状・治療・看護 (ユマニチュード) ② 認知機能の評価 (HDS-R)	・ライフストーリーを基に発達段階や発達課題を踏まえてアセスメントする。 ・記録用紙: 様式 1-1、4-1、ライフヒストリー

目標 2 高齢者に関心を寄せ尊重した態度がとれる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 老年期にある人に関心をもち自ら積極的に関わることができる。	1. 施設の概要・特徴 1) 大規模複合型介護施設 2) 老人福祉センター 3) 介護老人保健施設	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習の活用 ・利用者の方とのコミュニケーションから施設で生活している方の思いや願いを傾聴する ・利用者が受けているサービス内容や健康チェックへの参加、またコミュニケーションから大規模複合型施設や老人福祉施設を利用する高齢者の特徴と目的を確認する。 ・記録用紙 老年見学記録実習
2. 施設で生活している対象の思いや願いをありのまま受け止めることができる。	2. 高齢者の保健医療における法律 1) 老人保健法 2) 老人福祉法 3) 介護保険法	
3. 大規模複合型介護施設を利用する高齢者の特徴と目的が理解できる。	3. 介護・保険サービス 1) 介護老人福祉施設（特別養護ホーム） 2) 介護老人保健施設 3) 通所介護（デイサービス） 4) 通所リハビリテーション（デイケア） 5) 短期入所生活介護（ショートステイ） 6) 短期入所療養介護（ショートステイ）	
4. 老人福祉センターを利用する高齢者の特徴と目的が理解できる。		

目標 3 対象の加齢や疾患、障害による日常の生活機能への影響を包括的にアセスメントし、看護展開できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 受持ち利用者の行っているレクリエーションやケア、リハビリテーション、日常生活援助を通して情報収集ができる。	1. 高齢者のリハビリテーションの目的・意義 1) 理学療法 2) 作業療法 3) 言語聴覚療法	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習、追記学習の活用 ・リハビリテーション・レクリエーション・日常生活援助の見学・実施から情報収集を行う。 ・加齢変化が日常生活に影響を及ぼしているか関りを通して持てる力はどこかアセスメントする。また、日常生活に対する患者本人の思いや捉え方を知り、持てる力を見いだす。 ・持てる力を引き出す看護計画を立案する。 ・実践した援助を受け持ち利用者の反応（言動・行動）から根拠を持ってアセスメントし、看護計画の追加、修正をする。 ・記録用紙 様式 1-1、2、3、4-1、4-2、5、6、7
2. 受け持ち利用者の加齢変化による日常生活行動への影響についてアセスメントし理解できる。	2. 高齢者のレクリエーションの目的・意義 3. 加齢変化について	
3. 高齢者の強み（持てる）力を活かし、ADL の維持・向上が出来るよう看護計画を立案できる。	運動機能、感覚機能、消化器系、循環器系、内分泌系、代謝系、腎・泌尿器系、血液、呼吸器系、脳神経系、運動器系、皮膚、生殖機能	
4. 実践した援助を、受け持ち利用者の反応（言動・行動）を捉え、アセスメントし看護計画の追加修正ができる。	4. 日常生活に対する利用者本人の捉え方・思い・願い	

目標 4 対象の意思・意欲を尊重し、自立度の維持に向けた援助ができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 受け持ち利用者の自立度に合わせ、残存機能を活かした日常生活援助ができる。	1. 援助技術 1) バイタルサイン測定 2) おむつ交換 3) 陰部洗浄 4) トイレ介助 5) 食事介助 6) 口腔ケア・義歯の取り扱い 7) 車いすの移乗・移送、歩行介助 8) 入浴介助 (機械浴・シャワー浴・中間浴)	・セルフケア理論とストレングスモデルについて事前学習をする ・実習前に手順書の事前準備をする。 ・対象の意思・意欲・自立度を意識して援助をしていく。 ・援助の見学、実践から持てる力を追記し、援助を振り返り日々修正する。 ・高齢者の安全についてカンファレンスを行う ・カンファレンステーマ 「高齢者の安全について」 ・記録用紙 手順書、援助の振り返り
2. 受け持ち利用者の持てる力を活かし意欲を引き出す援助を行い日々振り返ることができる。	2. セルフケア理論 3. スtrenグスモデルの原理 4. 援助における利用者の反応・発言	
3. 高齢者が起こしやすい事故に留意し、利用者の意思を尊重しながら安全に援助ができる。		

目標 5 高齢者の生活を支える職種の役割と重要性を理解すると共に、チームにおける看護師の役割が理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 老人保健施設における看護師の活動を見学し、施設における看護師の役割を述べることができる。	1. 老健施設における看護師の役割 2. 施設で高齢者の生活を支える職種の役割 1) 医師 2) 看護師 3) 介護士 4) 社会福祉士 5) ソーシャルワーカー・ケアマネジャー 6) 栄養士 7) 理学療法士 8) 作業療法士 9) 言語聴覚士	・学習内容 1.2.3 について 1. 朝の申し送りの場面や、日常生活場面での看護師の活動から老健施設における看護師の役割および看護と介護の連携についての理解を深める 2. カンファレンスで、受け持ち利用者を支えている職種の役割を述べる。 ・カンファレンステーマ 「高齢者を支える職種の役割について」 ・学習内容 4・5 について 1. 大規模複合型施設・老人福祉センターの見学実習で事前学習を基に実際の見学場面・施設概要の講義から施設の機能・役割を学び実習記録に記録する。 ・記録用紙 老年見学記録実習
2. 老人保健施設の生活場面を見学し、看護と介護の連携について考えることができる		
3. 高齢者の生活場面を支えている職種の種類と役割について理解する		
4. 大規模複合型介護施設の法律に基づく施設の機能・役割について見学の場面から自分の考えを述べられる。		
5. 老人福祉センターの法律に基づく施設の機能・役割について見学の場面から自分の考えを述べられる。		

目標 6 高齢者との関わりから老年観を養い、主体的に学習に取り組める。

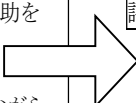
行動目標	学習内容	学習方法
1. 自己の老年観について表現することができる。	1. 実習を通しての老年観について 2. 老年看護に必要な事前学習・追記学習	・事前オリエンテーションへ参加し老年看護学実習で何を学ぶのか、また学習方法について理解する。
2. 対象との関わりから必要な老年看護の知識を自ら学習し実習に活かすことができる	3. 学習者として積極的な学習姿勢・態度	・本実習での高齢者との関わりから地域で生活している方の理解を深め、そのことから老年看護学実習Ⅱで入院生活を送っている方の元の生活、退院後の生活を考えられるよう老年観についてレポートを作成する。また、レポート記載内容 ・レポート テーマ:「私の考える老年観」 文字数:1000 文字 ※記載形式は教育課程のレポートの作成を参照

6. 実習の進め方

1 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～17:00	8:15～12:15	8:15～17:00	8:15～17:00	学内実習 1.5 時間
予定	病棟オリエンテーション ・受持ち対象の選定 ・患者紹介・情報収集 ・コミュニケーション	情報整理と分類、分析解釈 ・コミュニケーション ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施 ・意図的に情報収集及び分析解釈を実施	情報整理と分類、分析解釈 ・コミュニケーション ・行動計画に基づいた援助の見学、一部実施	情報整理と分類、分析解釈 ・コミュニケーション ・行動計画に基づいた援助の見学一部実施	アセスメント、全体像 看護診断リストの記録整理
CF	・リフレクションシートを用いて自己の課題と取り組みの発表	なし	高齢者の安全について	・全体像の発表 ・アセスメント発表(1 項目)	なし
記録	リフレクションシート 様式1-1、4-1	様式 1-1、2、4-2	様式 2、3、4-2	様式 2、3、4-2	様式 2、3、4-2、5

2 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～17:00	8:15～12:15	8:15～17:00	8:15～17:00	学内実習 1.5 時間
予定	・全体像 ・問題点抽出	看護計画の立案	計画の実施・評価 看護計画に沿って援助を実施する ・対象の反応を捉えながら援助実施・評価をする	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">評価面談</div> 	老人福祉センターについて調べる
CF	全体像の発表(修正) 看護診断リストの発表	看護計画発表	高齢者を支える職種の役割について	リフレクションシートを用いて自己の課題を明確にする	なし
記録	様式 2、3、4-2、5	様式 4-2、5、6	様式 6、7	様式 6、7	

大規模複合型介護施設(クローバーのさと)

老人福祉センター

曜日	1 日目	2 日目		1 日目	2 日目
時間	9:00～16:45	9:00～16:45		施設による	施設による
予定	・施設の概要等の講義 ・施設見学	・老人保健施設 ・老人福祉施設 ・デイサービス 上記をローテーションして利用者の方とコミュニケーションをとる		・施設見学 ・利用者が受けているサービス内容や健康チェックへの参加	・施設見学 ・利用者が受けているサービス内容や健康チェックへの参加
CF	気づきと学び	気づきと学び		気づきと学び	気づきと学び
記録	老年見学記録用紙	老年見学記録用紙		老年見学記録用紙	老年学記録用紙

7. 実習評価表

実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

実習グループ G 学籍番号 _____ 学生氏名 _____

	評価項目	中間 評価	最終 評価	教員・指導者 評価
目標 1	1. 高齢者の特徴(加齢変化および認知症や健康障害)を踏まえたコミュニケーションをとることができる。			
	2. ライフヒストリーの聴取を行い、対象の生活史や価値観を理解することができる。			
目標 2	1. 老年期にある人に関心を持ち自ら積極的に関わることができる。			
	2. 施設で生活している対象の思いや願いをありのまま受け止めることができる			
	3. 大規模複合型介護施設を利用する高齢者の特徴と目的が理解できる。			
	4. 老人福祉センターを利用する高齢者の特徴と目的が理解できる。			
目標 3	1. 受け持ち利用者の行っているレクリエーションやケア、リハビリテーションを通して情報収集ができる。			
	2. 受け持ち利用者の加齢変化による日常生活行動への影響についてアセスメントし理解できる。			
	3. 高齢者の強み(持てる)力を活かし、ADL の維持・向上が出来るよう日常生活援助を立案できる。			
	4. 実践した援助を、受け持ち利用者の反応(言動・行動)を捉え、アセスメントし看護計画の追加修正ができる。			
目標 4	1. 受け持ち利用者の自立度に合わせ、残存機能を活かした日常生活援助ができる。			
	2. 受け持ち利用者の持てる力を活かし意欲を引き出す援助を行い日々振り返ることができる。			
	3. 高齢者が起こしやすい事故に留意し、利用者の意思を尊重しながら安全に援助ができる。			
目標 5	1. 老人保健施設における看護師の活動を見学し、看護師の役割を理解できる。			
	2. 老人保健施設の生活場面を見学し、看護と介護の連携について考えることができる。			
	3. 高齢者の生活場면을支えている職種の種類と役割について理解できる。			
	4. 大規模複合型介護施設の法律に基づく施設の機能・役割について見学の場面から自分の考えが述べられる。			
	5. 老人福祉センターの法律に基づく施設の機能・役割について見学の場面から自分の考えが述べられる。			
目標 6	1. 自己の老年観について表現することができる。			
	2. 対象との関わりから必要な老年看護の知識を自ら学習し実習に活かすことができる。			
学生コメント		指導者コメント		
		サイン		
自己評価合計点		サイン		
サイン		サイン		
欠席合計時間		総合評価点		
時間 分		サイン		

評価基準 5：達成 3：一部達成 1：未達成 ※網掛けの部分はクローバーのさとして評価をする。

老年看護学実習Ⅱ

1. 目的

健康障害がある高齢者の特徴を理解し、対象の持てる力を活かし対象とその家族へ看護を実践する。

2. 目標

- 1) 高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。
- 2) 高齢者とその家族に関心寄せ関わることができる。
- 3) 対象の加齢変化と健康障害を理解し、家族支援を含めた看護の展開ができる。
- 4) 高齢者の健康障害の複雑さと多様性を理解し、対象と家族の持てる力に着目した援助ができる。
- 5) 医療施設における高齢者とその家族を支える職種の役割とチームにおける看護師の役割が理解できる。
- 6) 高齢期にある対象とその家族との関わりから、老年観を深め自己の看護について振り返ることができる。

3. 実習構成

老年看護学実習Ⅱ 2単位(90時間)	・時間数(単位)	実習施設
	1.5時間	新戸塚病院・江田記念病院・相原病院
	88.5時間	イムス横浜狩場脳神経外科病院

4. 患者選定条件

後期高齢者(75歳以上)の方

5. 実習目標に関する学習内容

目標1 高齢者の特徴を身体的・精神的・社会的側面から理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 老年期にある人と家族を統合的に理解することができる。	1. 対象の個人史、生活背景の理解・発達段階(エリクソン・ハヴィガースト)	・事前学習、追記学習を活用しコミュニケーションをとる
2. 健康状態について、加齢変化と疾患、生活環境から把握することができる。	2. 高齢者とのコミュニケーション方法	・対象とご家族とのコミュニケーションから自宅での生活状況と家族関係を把握する。
3. 対象を家族や周囲と相互しあう関係性をふまえて捉えることができる	1) 加齢変化の影響 2) 疾患・障害の影響 3) 老人性難聴 4) 失語症 5) 構音障害	・生きがいや大切にしているものなど社会的側面、精神的側面にも視点をあて情報収集を行う。
4. 対象の生きがいや価値観・信条について理解することができる。	3. 認知症について 1) 認知症の症状・治療・看護(ユマニチュード) 2) 認知機能の評価(HDS-R) 4. 家での生活状況 5. 生きがい 6. 価値観 7. 信条	・認知症がある場合はどのような影響があるのかを把握する。 ・記録用紙 様式 1-1、1-2

目標 2 高齢者とその家族に関心寄せ関わることができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象の価値観や信条を尊重した態度で関わるができる。	1. 高齢者とのコミュニケーション方法 1) 加齢変化の影響 2) 疾患・障害の影響 3) 老人性難聴 4) 失語症 5) 構音障害	・コミュニケーションを通し、対象や家族の思い願いを傾聴する ・対象の価値観、信条を理解したうえで尊重した態度をとる。
2. 対象とその家族の思いや願いをありのまま受け止めることができる。	2. 高齢者とご家族を尊重した態度 1) 傾聴 2) 共感 3) 受容	

目標 3 対象の加齢変化と健康障害を理解し、家族支援を含めた看護の展開ができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 加齢変化と健康障害により変化した生活について情報収集を行える。	1. 高齢者のリハビリの目的・意義 1) 理学療法について 2) 作業療法について 3) 言語聴覚療法について	・事前学習、追記学習の活用し加齢変化から日常生活に影響を及ぼしていることがないか日常生活援助から確認する。
2. 既往歴や現病歴を含む疾患・加齢による変化、対象の持てる力、家族状況をふまえて分析できる。	2 高齢者のレクリエーションの目的・意義 3. 加齢変化について 運動機能、感覚機能、消化器系、循環器系、内分泌系、代謝系、腎・泌尿器系、血液、呼吸器系、脳神経系、運動器系、皮膚、生殖機能	・リハビリテーション、レクリエーション、日常生活の援助から日常生活動作への影響が無いかを把握する。
3. 現在の健康問題だけでなく、高齢者の予備力・回復力をふまえ予測される問題を明確にし、看護上の問題と優先順位を考えることができる。	4. 介護力のアセスメント 1) キーパーソン 2) 自宅の環境 3) 介護保険の状況	・実践した援助を受け持ち利用者の反応(言動・行動)から根拠を持ってアセスメントし、看護計画の追加、修正をする。
4. 対象のみならず家族支援の視点を含めた看護計画を立案できる。		・カルテ・本人・家族からの情報収集を行い家族支援の状況を把握する。
5. 実施した看護計画を対象の反応を捉え根拠をもって評価し追加・修正できる。		・看護計画を退院後の生活や、家族支援を意識して立案する。 ・記録用紙 様式 1-1、1-2、2、3、4、5、6、

目標 4 高齢者の健康障害の複雑さと多様性を理解し、対象と家族の持てる力に着目した援助ができる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象とその家族に応じた援助を行うことができる。	1. 援助技術 1) バイタルサイン測定 2) おむつ交換 3) 陰部洗浄	・援助の見学、実践から個別性を追加し援助を振り返り日々修正する。
2. 生活機能の維持・拡大	4) トイレ介助	・対象の疾患、身体状況のアセスメントから必要な援助・方法を考えて実践する。

に焦点をあて残存機能を活かした生活援助が実施できる。	5) 食事介助 6) 口腔ケア・義歯の取り扱い 7) 車いすの移乗・移送、歩行介助 8) 入浴介助 (機械浴・シャワー浴・中間浴)	・対象や家族が日常生活をどこまで求めているのかを把握し援助をしていく。 ・対象のペースに合わせ励まししながら援助を行う。 ・カンファレンスで対象の関わりから高齢者の安全について考える。
3. 安全に留意しながら、対象の持てる力を活かしながら自立に向けた援助ができる。	2. 対象の疾患が日常生活に及ぼす影響 3. 対象の日常生活に対する利用者本人の捉え方・思い・願い 4. 対象の持てる力	カンファレンステーマ 「高齢者の安全について」 ・記録用紙 手順書、援助の振り返り
4. 援助の際に対象に適した声かけやペースで反応を見ながら行う事ができる。		

目標 5 医療施設における高齢者とその家族を支える職種の役割とチームにおける看護師の役割が理解できる。

行動目標	学習内容	学習方法
1. 今後の方向性を把握し、対象および家族とともに生活への影響を把握し、自己の考えを述べるができる。	1. 高齢者の療養生活を支える職種の役割 1) 医師 2) 看護師 3) 介護士 4) 社会福祉士 5) ソーシャルワーカー・ケアマネジャー 6) 栄養士 7) 理学療法士 8) 作業療法士 9) 言語聴覚士	・事前学習・追記学習の活用。 ・多職種から情報収集行う。また看護学生として自分との関りから情報提供を行う。 ・退院支援カンファレンス等への参加し、対象を支えている職種の実習の活動を見学する。 ・カンファレンスで、受け持ち利用者を支えている職種の役割を述べる。
2. 看護の継続を考え、対象および家族の状況に応じた社会資源について考えることができる。	2. 多職種との連携 4. 介護保険制度 3. 社会資源の種類	・対象の退院後の生活を考え必要な社会資源を考える。 ・カンファレンステーマ 「多職種の役割と連携について」
3. 他職種と情報共有を行いチームの一員として責任ある行動がとれる。		

目標 6 高齢期にある対象とその家族との関わりから、老年観を深め自己の看護について振り返ることができる。

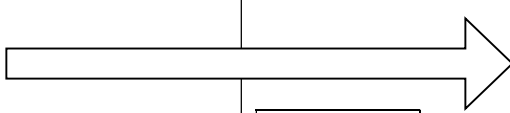
行動目標	学習内容	学習方法
1. 対象との関わりを通し老年観を深めることができる	1. 老年観について 2. 看護学生としての今後の課題	・老年看護実習Ⅰのレポートを返却し自己の老年観を再確認しながら今回の対象との関わりを振り返り老年看護とは何かを考え自己の看護観を深める。 ・カンファレンステーマ 「老年観について」～私の考える老年看護～ ・実習最終日にリフレクション用紙を基に自己の課題を明確にする。
2. 高齢者とその家族との関わりから自己を振り返り、課題を明確にすることができる。		

6. 実習の進め方

1 週目

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	病棟オリエンテーション ・受持ち対象の選定 ・対象紹介 ・情報収集 ・コミュニケーション	情報整理と分類、 分析解釈 ・コミュニケーション ・意図的に情報収集及び 分析解釈を実施 ・行動計画に基づいた援 助の見学、一部実施 ・病態関連図作成	分析解釈 ・情報収集をもとに分析、 解釈を実施 ・行動計画に基づいた援 助の見学、一部実施	全体像描写 ・対象の全体像を考える
CF	・受け持ち患者情報共有	高齢者の安全について		全体像発表 アセスメント発表
記録	リフレクションシート 様式 1-1	様式 1-2、2	様式 1-2、2、3	様式 1-2、2、3

2 週目

曜日	月	火	水	木
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00
予定	全体像修正 問題点抽出	看護計画の立案	計画の実施・評価	
CF	全体像の発表(修正) アセスメント発表(修正)	看護計画発表	多職種の役割と連携につ いて	<div>中間評価面談</div>
記録	様式 1-2、2、3、4	様式 1-2、4、5	様式 5、6	様式 5、6

3 週目

曜日	月	火	水	木	金
時間	8:15～17:00	8:15～14:30	8:15～17:00	8:15～17:00	9:00
予定	計画の実施・評価 ・看護計画に沿って援 助を実施する ・対象の反応を捉えなが ら援助を実施し、実施・ 評価を行う	計画の実施・評価	計画の実施・評価	計画の実施・評価 <div>最終評価面談</div>	<div>記録提出</div>
CF			老年観について	リフレクションシート の発表	
記録	様式 5、6	様式 5、6	様式 5、6 実習評価表	様式 5、6 リフレクションシート	実習記録すべて

7. 実習評価表 実習期間： 年 月 日 ～ 年 月 日

実習グループ G 学籍番号 _____ 学生氏名 _____

	評価項目	中間 評価	最終 評価	教員・指導者 評価
目標 1	1. 老年期にある人と家族を統合的に理解することができる。			
	2. 健康状態について、加齢変化と疾患、生活環境から把握することができる。			
	3. 対象を家族や周囲と相互師あう関係性をふまえて捉えることができる			
	4. 対象の生きがいや価値観・信条について理解することができる。			
目標 2	1. 対象の価値観や信条を尊重した態度で関わるができる。			
	2. 対象とその家族の思いや願いをありのまま受け止めることができる。			
目標 3	1. 加齢変化と健康障害により変化した生活について情報収集を行える。			
	2. 既往歴や現病歴を含む疾患・加齢による変化、対象の持てる力、家族状況をふまえて分析できる。			
	3. 現在の健康問題だけでなく、高齢者の予備力・回復力をふまえ予測される問題を明確にし、看護上の問題と優先順位を考えることができる。			
	4. 対象のみならず家族支援の視点を含めた看護計画を立案できる。			
	5. 実施した看護計画を対象の反応を捉え根拠をもって評価し追加・修正できる。			
目標 4	1. 対象とその家族に応じた援助を行うことができる。			
	2. 生活機能の維持・拡大に焦点をあて残存機能を活かした生活援助が実施できる。			
	3. 安全に留意しながら対象の持てる力を活かし自立に向けた援助ができる。			
	4. 援助の際に対象に適した声かけやペースで反応見ながら行う事ができる。			
目標 5	1. 今後の方向性を把握し、対象および家族とともに生活への影響を把握し、自己の考えを述べるができる。			
	2. 看護の継続を考え、対象および家族の状況に応じた社会資源について考えることができる。			
	3. 他職種と情報共有を行いチームの一員として責任ある行動がとれる。			
目標 6	1. 対象との関わりを通し老年観を深めることができる			
	2. 高齢者とその家族との関わりから自己を振り返り、課題を明確にすることができる。			
学生コメント		指導者コメント		
		サイン		
		教員コメント		
自己評価合計点 サイン		サイン		
欠席合計時間 時間 分		総合評価点 サイン		

評価基準 5：達成 3：一部達成 1：未達成